

わかやま母親通信

第88号 2021年5月16日発行予定

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール：w_haharen@wkn.or.jp

生命を生み出す母親は
生命を育て
生命を守ることをのぞみます

2021年6月20日(日) in有田川町 金屋文化保健センター HP 和歌山県母親大会

第65回県母親大会in有田川町を中止します

新型コロナウイルス感染症の感染が広がり続けています。次々と感染力の強い変異株が現れ、収束のめどが立ちそうにありません。近府県では、医療崩壊の事態が起きています。

県大会本部役員会は、この事態を踏まえ、4月24日(土)に緊急役員会を持ちました。5月8日の県実行委員会は中止し、その実行委員会で開催の有無を決定する予定の「第65回和歌山県母親大会 in 有田川町」については、役員会として取り止めを判断し、各郡市母連・加盟団体へ連絡いたしました。昨年に引き続き、大変残念なことです。開催地として準備を続けてきた有田郡市の方たちは、なおの事だと思えます。

では、今後どうしていくかについて、改めて各郡市母連・加盟団体の意見や要望を集約しました。結果、最も多かったのは、

「有田の意向を優先する」といった意見でした。その上で、「2郡市合同大会となるよりは、郡市別大会の方がやりやすい」といった希望でした。

他には、*計画した「in 有田川町」を秋に延期したらどうか。

* 2郡市合同大会を秋にしたらどうか。

* 県母連主導で和歌山市での開催は、どうか。

* 講演の録画より、生講演の方が良いが…。

* 今年も中止にしたらどうか。反対に、2年連続中止にせず何とかやりたい。

などの意見も寄せられました。そして、有田母連の意見は、郡市別大会にした方が、それぞれで、いい時期を選択しやすいと思う、ということでした。



これを受けて、5月15日(土)に、県大会本部役員会を開催し、議論しました。そして、今年の県大会は、次の形での開催を提案します。

2021年第65回和歌山県母親大会は、 9月以降、郡市別母親大会として開催します。

今後、「in 有田川町」を付けません。詳しくは、裏面で説明します。

これからの県大会に向けた準備として、

- (1) 8月末～9月初めに、西郷南海子さんの講演を録画撮りする。(県母連で)
この場合、可能なら本人に来和していただき、公開録画できたらと考えています。
- (2) 各郡市母連で、9月～10月に、郡市母親大会を計画し、西郷さんの講演ビデオを使用して開催する。→日程が確定したら、県事務局へ連絡してください。↓

11月13日(土)に開催が予定される 「第66回日本母親大会 in 沖縄オンライン大会」 へつなぐことになればと思います。
--



- (3) 但し、新型コロナウイルス感染症の流行状況により、秋の郡市母親大会の開催も困難となる場合も考えられるので、12月の母親平和行動(学習会)や来年3月の国際女性デーの取り組みと重なる場合も考えられると思います。(柔軟に)

再確認ですが、2月20日の県実行委員会の話し合いを受けて、
今年は何らかの形で、県大会を開催する方向を追求したいと考えました。

母親・女性の強みは、「**粘りと柔軟さ**」です。

そして、「**だまされない」「あきらめない」「立ち止まらない**」の想いです。

今、大勢が集まって行動したり、多くの人に働きかけをしたりすることができにくい状況ではありますが、工夫をしながら、政治の動きについての学習・地域の要求運動への参加に努めたいと考えます。なぜなら、

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらず長期化する中で、

国民の多くが、肉体的に、精神的に、経済的に、苦しい思いをしている状況なのに、その隙間を狙うかのように、政治権力を持っている人たちは、

国民投票法案、デジタル関連法案、高齢者医療費2倍化法案などを国会で通過させようとしています。これらは、今後の日本を変え日々の生活に直結してくる制度です。和歌山県・市で進める「IRカジノ」問題も、コロナ対策の陰に隠れて「事業者の選定」(名乗りを上げている2事業者とも胡散臭く、その1事業者が突然撤退)まで進んでいます。もちろん、地域の反対運動は休むことなく頑張っていますが…。各地域でも、切実な要求やその要求運動は、休むことなく活動していることと思います。その要求運動に、できる形で参加していきましょう。



11月の対県交渉に生かします。

みなさん、くれぐれも、健康にお過ごしくださいね。

今度お会いする時には、元気に、笑顔で、お会いしましょう